

有明海水産資源回復技術確立事業*

ウミタケ種苗生産技術開発試験（ウミタケ浮遊幼生調査）

野田 進治・佃 政則

ウミタケ資源の動態を把握するため、ウミタケ浮遊幼生調査を行ったので概要を報告する。

方法

ウミタケ浮遊幼生調査は、令和2年10月16日～11月30日の間に6回、満潮の前後3時間内に図1に示した3定点で実施した。

各地点で北原式定量プランクトンネットを一部改良した目合60 μ m、口径46cmの上部キャンバスがない金属アイマー付きのネットを用いて、海底から表層まで鉛直曳きを行った。濾水後の試料は、250mLポリ瓶に回収し、グルタルアルデヒドで固定して室内に持ち帰り、試料の10分の1量を検鏡し、ウミタケ浮遊幼生の個体数及び殻長を測定した。なお、130 μ m以下は他の2枚貝幼生と判別がつきにくいため、測定個体数には含めなかった。

結果

表1に調査日と調査地点の水深を示す。また、図2に調査地点別ウミタケ浮遊幼生の出現個体数の推移を示す。St.1では10月16日及び22日は出現個体数が60個体/m³以下で推移していたが、10月30日には急激に増加し、161個体/m³とピークを迎え、11月9日には減少に転じた。St.2では10月16日は出現個体がみられなかったが、10月22日には91個体/m³と増加し、11月20日までは同様の個体数を維持したものの、11月30日にはみられなくなった。St.3では10月16日は出現個体がみられなかったが、11月9日には83個体/m³と増加し、11月20日までは同様の個体数を維持したものの、11月30日にはほとんどみられなくなった。以上のように、10月22日から11月20日までウミタケ浮遊幼生の出現個体が多い傾向がみられた。

今年度の各地点における最大出現個体数は、St.1で161個体/m³、St.2で91個体/m³、St.3で83個体/m³と、前年度の最大出現個体数であるSt.1で235個体/m³、St.2で204個体/m³、St.3で184個体/m³と比較すると、いずれの地点も少なかった。

図3に調査日別殻長組成を示す。複数のモードがみら

れるが、浮遊幼生が多く出現していた10月22日から11月20日までの殻長は、次第に大きくなっており、徐々に成長していることが伺えた。

文献

- 1) 伊藤史郎・川原逸朗・大隈斉・山口忠則・江口泰蔵・田中賢二(2003)：有明海湾奥部におけるウミタケの繁殖生態。佐有水研報，(21)，51-69.
- 2) 野田進治・重久剛佑・佃政則(2021)；ウミタケ等適正生息環境調査（ウミタケ浮遊幼生調査），令和元年度佐賀県有明水産振興センター業務報告，p39-40.

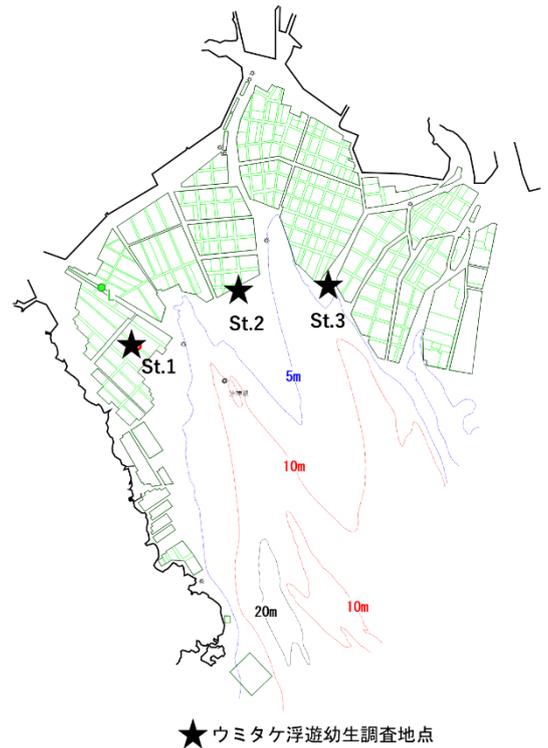


図1 ウミタケ浮遊幼生調査地点

表1 調査日と調査地点の水深 (m)

	St.1	St.2	St.3
10月16日	6.4	7.2	9.5
10月22日	4.2	5.3	8.3
10月30日	5.6	6.8	8.7
11月9日	4.8	5.3	8
11月20日	5.2	6	8.3
11月30日	5.4	6.3	8.6

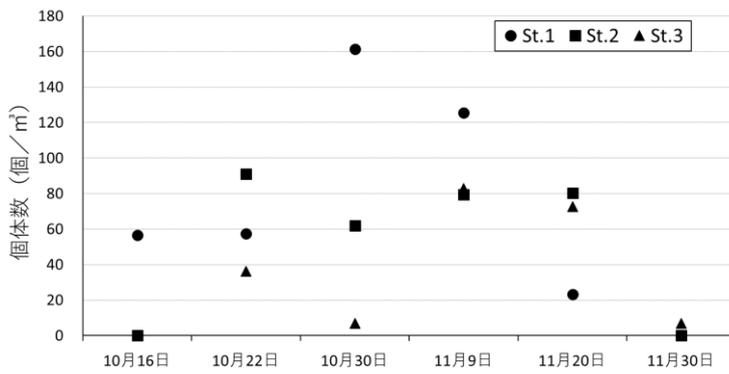


図2 ウミタケ浮遊幼生の出現個体数の推移

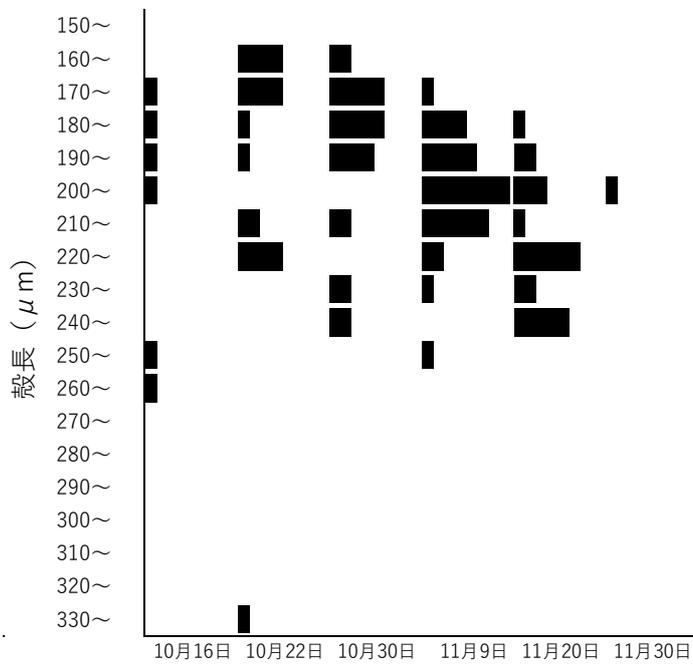


図3 ウミタケ浮遊幼生の殻長組成の推移